

月刊 あなたにこの本を！ 平成 26 年 12 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとに()内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



ハラルマーケット最前線 ―急増する訪日イスラム教徒の受け入れ態勢と、ハラル認証制度の今を追う―

佐々木良昭 著

実業之日本社 1500 円 (0013071036)

ジャンル：現代社会を見つめる

ハラルとは、イスラム法で許される行為や食事のことだ。本書は、東京オリンピックを控え、急増するイスラム教徒の訪日観光客をどのようにもてなすべきか、最新事例も交えて紹介する。たとえば既に京都には、お祈り用のカーペットを提供するホテルや、ハラル対応した懐石料理を出す料理店がある。また、日本には独自の認証制度があると言及する。「ハラルは個人の心の中にある」と指摘する著者の説明はわかりやすく、示唆に富む。〔167〕



はじめての土偶



譽田亜紀子 取材・文 武藤康弘 監修

世界文化社 1800 円

(0013040046)

ジャンル：歴史・文化に親しむ

本書は、「ドッキリな人たち」や「対決！テーマで見る土偶」など、見た目を切り口に分析する、一風変わった土偶の入門書だ。不思議な形をし、どこか愛きょうのある土偶たちを 70 点あまり紹介する。細部までよくわかる大判の写真に添えられたユーモアあふれる一言が、その姿の面白さを際立たせ、思わず笑ってしまう。縄文人の生活についての話や、土偶年表、出土地図、収蔵館一覧なども収載されている。土偶に関する知識と遊び心がたっぷり詰まった一冊だ。〔210.25〕



赤ちゃんの心と出会う

―新生児科医が伝える「あたたかい心」の育て方―

仁志田博司 著

小学館 1500 円

(0013023369)

ジャンル：子どもの成長のために

著者は、医師として、新生児医療に 40 年以上携わり、新生児集中治療室での数々の臨床経験をもつ。その現場で出会った多くの母と子から、子育ての鍵となる「あたたかい心」の育みの大切さを教わったという。また、赤ちゃんにストレスを与える機械的な医療から、思いやりのある「心を育む医療」への転換を促した研究「NIDCAP」を紹介する。赤ちゃんの心に寄り添う子育ての真髄を、最新の脳科学の知識を交えながら、わかりやすく語る育児指南書だ。〔599〕

大人はどうして働くの？

宮本恵理子 編・著 天野 篤 [ほか著]
 日経BP社（発行） 日経BPマーケティング（発売）
 1300 円 （0013019655）

ジャンル：子どもの成長のために

「大人になったらなぜ働くのか」をテーマに、池上彰や三浦しをんなど様々な分野で活躍する7人が語った談話集。「働き方」「生き方」などを中心に取材してきた宮本氏が一冊の本にまとめた。親子で「働く」をじっくり考える機会が持てるように、子どもに語られた章、大人向けに語られた章に分けられている。インタビューを通して、働くことは自分を知る作業の連続ではないかと思ったと著者は言う。働くことの意味や価値について考えるのに格好の一冊だ。〔366〕

**ある日、私は友達をクビになった
—スマホ世代のいじめ事情—**

エミリー・バゼロン 著 高橋由紀子 訳
 早川書房 1800 円
 (0013094766)

ジャンル：現代社会を見つめる

新しい髪型、そんなささいなことで、ある日突然友達をクビになる。本書では、自身もいじめられた経験のある著者が、アメリカでの3人の少年少女のケースを軸に、いじめの原因、対処方法などを探る。近年のインターネットの普及により、ウェブ上でのいじめが急増し、学校以外でも安心して過ごすことができない現状も紹介する。いじめは人を変える力を持つ、そこから立ち直る力を身につければ良い方にも変わる、と語る著者の渾（こん）身のルポルタージュ。〔371.41〕

<運ぶヒト>の人類学

川田順造 著
 岩波書店 720 円
 (0013231380)

ジャンル：知識・教養を深める

人類学者の著者が、西アフリカの黒人、ヨーロッパの白人、東アジアの黄人に見られるモノの運び方を、身体的特徴や文化との関わりから考察する。頭上運搬を容易に行うことができ、運搬具をほとんど必要としない黒人には「人体の道具化」が、一方、箸などの単純な道具を巧みに使いこなす黄人には「道具の人間化」が見られるという。荷物を運ぶ能力という、今まで研究されてこなかった斬新な着眼点を持つ本書には、知的好奇心が刺激される。〔389〕

体にいい食べ物はなぜコロコロと変わるのか

畑中三応子 著
 ベストセラーズ 796 円
 (0013003009)

ジャンル：知識・教養を深める

体にいいと言われていた食品が、いつの間にか体に悪いとされていることがある。本書は、明治時代から現在に至るまで、体にいい、悪いとされた食品を、誰がどのような理由で主張したのか幅広く紹介する。巻末に記載された年表によると、ココアや納豆などの一品健康食品ブームが毎年のように作られていることが分かる。著者は、情報に惑わされず、食べ物をバランスよく取り入れることが大切だと言う。善悪二元論を俯瞰（ふかん）した著者の見解に注目したい。〔498.54〕